

令和6年度 第1回旭市総合戦略推進委員会（次期総合戦略策定）

議事録【要約】

日時：令和6年7月26日（金）

10:00～12:00

場所：旭市役所3階 政策決定室

○出席者

《委員》

鎌田 元弘 委員長	出	柳 明美 副委員長	出	鈴木 正雄 委員	出
加瀬 哲郎 委員	出	林 千夏 委員	出	伊藤 直美 委員	欠
川村 崇 委員	出	奈良 暁子 委員	出	石毛 良樹 委員	欠
佐藤 勝彦 委員	出	梅田 和男 委員	出	宮内 夏子 委員	出
飯田 周作 委員	欠	嶋田 明範 委員	出	加瀬 修一 委員	出
花香 真菜 委員	欠	西坂 重信 委員	出	水野 竜也 委員	欠

《事務局》 旭市企画政策課：柴課長、江戸副課長、角川班長、高木、木内

《支援業務受注者》（株）ちばぎん総合研究所 小松、大塚

○配布資料（事前配布）

- ・ 次第
- ・ 資料1 第3期旭市総合戦略骨子（案）

○会議内容

1 開会

- ・ 配布資料の確認
- ・ 欠席委員の報告
- ・ 変更委員の報告・挨拶

2 あいさつ

3 議題

委員長：「（1）第3期旭市総合戦略骨子（案）」について、事務局からの説明をお願いします。

事務局：資料1について説明

委員長：ご意見・ご質問等ありましたらお願いします。

委員：2ページの全体概要「デジタル技術による地域課題解決」とあるが、どのようなイメージか。銀行もDX化を進めていて、銀行に行かなくてもアプリで色々な取引ができるようになっていく。一方で、高齢者にとっては分かりにくく、暮らしにくい世の中になっていく。所々にデジタルやDXの記載があり、市や公共団体が率先してインフラを整えていかないと進まないと感じているので、それらを踏まえた施策を検討してほしい。また、「地域経済の活性化を図る」とあるが、民間任せにならない施策をお願いしたい。九州では大きな半導体工場ができ、雇用が生まれ賃金が上がった。企業誘致が全てではないが、そのような施策をとっていかないと地域経済の活性化につながらない。鎌数工業団地内に太陽光パネルが設置され、お客様が入居したくても用地が無い。これでは地域経済の活性化につながらない。また、養豚加工場があるが、建物が古く、県内トップクラスの屠畜数だと思うが建て替える場所がない。そういった将来ビジョンを課題として掲げているのか、ずっと感じている。次に、6ページで出生数が令和4年から令和5年で51人増え、県内市町村の中で最も多い人数とあるが、要因は分かるか。

16ページの産業別就業者数の動向で、地域経済活性化につなげていくために、基幹産業である第一次産業を大事にもっと育てるか、新たな産業を生み出すことを盛り込むのか、ここを明確にしないとぶれてしまう。旭市は、農業、建設業の件数が県内で圧倒的に多いが、年齢構成をみると、農業も建設業も若年層が少ない状況で、10年後には担い手がいなく衰退していく。高校卒業して旭市で働きたい人は約120人と聞いたが、その方を企業等が取り合っている。就職者が少ないという声もよく聞くので、その対策も考えていかなければならない。

27ページに「市の魅力＝市民の「宝」として、さらに磨きをかけ、最大限に生かすとともに、強力で発信していく」とある。ポテンシャルはあるので発信が大事だと思う。勝浦市は気温が35度を超えない市ということで注目され、テレビ・マスコミで取り上げられる機会が増えていて、一生懸命取り組んでいる。アピールすることでみんなが気になり目にする、そのような施策を盛り込んでいただければと思う。

委員長：多面的にご指摘いただきましたが、事務局いかがでしょうか。

事務局：全体概要「デジタル技術による地域課題解決」は基本目標や重点プロジェクト、基本施策、全部にまたがっています。市民が市役所に行かなくてもアプリで申請手続きができるのもデジタル技術の活用だと思います。それ以外にも、介護の現場で人がやることを代わりにロボットがやることなどもデジタル技術の活用だと思います。農業でも後継者が減り若年層が少なくなっており、スマート農業に取り組んでいく流れになっていくと思います。個人が使う部分であったり、人手不足解消のためのデジタル技術の活用であったり、デジタルの使い方によってどんどん便利になってくると思うので、細かなところをどこに当てはめるかはこれからですが、考え方としては、もっと便利な社会にするためにデジタルを使って取り組んでいきたいと思っています。地域経済の活性化を民間任せにしないとありましたが、民間に頑張ってもらいたい部分に対して、どこまでサポート（補助）できるかが大切だと思っています。例えば、農業の規模拡大に対する国の支援策がありますが、市として何ができるのか、サポート体制を示していければと思います。あさひ鎌数工業団地では、企業の入居が進まず、空けておくより良いということで最終的に県が太陽光発電設備を設置したところがあります。確かにもったいないと思

ます。施設の建替えについては、県になると思いますので除かせていただきます。

P 6 の出生数ですが、出生数自体は数千人の自治体もあるなかで、前年との比較で増加数が県内で一番多い人数となりました。これについては、本市として子育て支援策を頑張っているということで回答させていただきます。P 1 6 については、第一次産業と新たな産業の両方を進めていきます。第一次産業は市の基幹産業ですので当然力を入れていきます。若年人口が減っていますので、就農していただくための施策も取り組んでいき、デジタル活用による農業の取組をサポートしていくこともあると思います。また、オンラインでできる仕事の誘致も含め起業支援も進めていければと考えています。本来であれば、第一次産業も若年層が増えてくれればいいと思いますが、どの業種でも人手不足が生じています。高卒者と企業をマッチングさせる取組を、市としても引き続き取り組んでいければと思います。

P 2 7 の情報発信は大切だと思っています。市民だけでなく市外の方に知っていただくことで色々な効果があると思います。移住・定住を考えていただくことにもつながります。旭市に興味をもっていただければ、ふるさと納税にも繋がり、現状、力を入れているところでもありますので、引き続き情報発信に注力していきたいと思っています。

委員長：ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

委 員：重点プロジェクトの4つの項目について、第2期では地産振興や子宝育成など漢字4文字でまとっていましたが、分かるような分からないような項目だと個人的に感じていました。今回は、先ほど説明にありましたが、旭ブランド創出プロジェクトなどイメージがしやすいと思いました。重点プロジェクト4つ目の「“健やかで幸せな”暮らしを守るプロジェクト」にCCDプロジェクトと出てきますが、これについてすぐ分かる人がどれだけいるのかなと思います。

事務局：市民に分かりやすい重点プロジェクトになるよう今回変えました。CCDプロジェクトについて、確かにご覧になられてCCDって何だろうと思う方がほとんどだと思います。ここは記述を見直したいと思います。

委員長：他にご意見ございますか。

委 員：先ほどの情報発信に繋がりますが、観光物産協会のHPの運営を始め、4月からアクセス数が見られるようになり、観光物産協会と道の駅は月1万人、移住・定住サイトは月5千人が見ている。テレビのロケツーリズムなどで旭市が映ると1日のアクセス数が400から800件と倍に伸びる状況も見られる。サイトのなかには、カフェやレストラン、地元の魚屋など特集ページがありますが、実はアクセス数ではカフェより地元の魚屋さんの方が意外と多かったです。観光物産協会のHPは、「旭市」「観光」で検索すると必ず出てくるサイトです。例えば、テレビで何か取り上げられるときには、そこに関連したものをHPに載せておくとか、観光に来られる方が何を望んでいるかが事前に分かっていたら、そういった情報発信もできます。テレビから来訪に繋がるような、横軸で連携した取組ができると、より効果的な情報発信ができる。

今、5歳の娘がいます。旭市を離れる人が多くなるのが15歳から25歳ということで、これ

が実現して若い女性にも魅力的な雇用が生まれると、娘もきっと旭市に残ってくれるだろうなと期待しています。

事務局：情報発信は、市だけでは限界があります。物産協会、道の駅と連携していけると良いと思います。また、娘さんが旭市に残ってくれるように、市も努力していきますし、娘さんにも旭市っていいところだよと今のうちから伝えていただければと思います。

委員：これから計画を立てるところで1つ提案があります。令和6年4月に介護保険、6月に医療保険の改正がありました。介護現場において、モニターで寝ていることを確認できることで巡視に行く必要がなくなる。その機械導入を、この3年間で進めていくことが国の方策です。もう1つ大きなところで医療との連携がある。施設に入所している方が協力病院に入院すると、福祉だけでなく医療にも点数が入るようになりました。旭中央病院を中心とした施策が入っていますが、病院の特性として、救急は旭中央病院ですが、慢性になったら福祉なのか近隣の療養型の病院なのかというところがあり、医療と福祉の連携では、現実として旭中央病院との連携はやりにくいところがある。旭市が出生率を高めるために努力することが盛り込まれ、生まれてからずっと旭市に住むことを考えたときに、旭市は医療・福祉も充実しているとてもいいところですが、高齢化になってからの医療・福祉を考えると、旭市だけでなく香取海匝の問題になってくと思う。旭中央病院や旭市内の病院だけでなく、現実には広い視点を加えていただきたいとずっと思っていた。旭市内で、中央病院以外で入院施設を持っている病院は2つしかありません。つまり、旭中央病院からの転院となると、銚子や小見川、匝瑳市内の病院になることが多いです。旭市民が人として人間らしく穏やかに終末を迎えるとなると、旭市内で完結することは現実として難しいと感じている。

委員長：関連して何かあればお答えいただければと思います。

委員：医療も、旭市だけでなく香取海匝地域ということで連携がキーワードになっている。今回旭市の総合戦略で、近隣市町と連携することが重要だと思う。近隣市町も人口が減っていますので、旭市だけでなく地域全体として発展していけるような施策があると良い。

事務局：医療と福祉の連携が大切ということは以前から言われています。確かに、入院では旭中央病院との連携が必要ですが、それ以外の部分については開業医との連携が必要になり、必要に応じて連携先が変わってくると思います。軽微なものまで旭中央病院となると旭中央病院が疲弊してってしまうので、そこは開業医を含めた中での連携が必要になってくると思います。当然、旭市内の病院だけでなく二次保健医療圏で考えていかないと、旭中央病院が大きい病院だからと一極集中になってしまうと大変です。二次保健医療圏を踏まえた中で医療・介護・福祉の連携を考えていくことが大切だと思っています。

委員長：CCDプロジェクトや予防医療も含めて示すことができるとよいと思います。他にいかがでしょうか。

委員：自分は子育て世代ですが、市内の小児科が少なく混雑している状況です。出生率を上げたいということであれば、子どもは必ず風邪をひきますので、小児科の誘致ができないか。

事務局：小児科医が少ない状況についての声は市に届いています。市でも小児科を誘致したいと思っていますが、小児科医自体が少なく誘致が難しい状況です。千葉大病院でもこの2年間で小児科医は1人か2人しか入らなかったと聞いています。旭市だけでなく県全域で小児科医が少ないという状況があるようです。誘致ができれば一番良いですがそれが難しいのであれば、例えば、オンラインで診てもらえるシステムや制度ができないかと県に要望しているところです。市としても気になる場所ですが、問題意識をもって動いています。

委員：情報発信について、ラジオを聴いていたら飯岡タカミメロンのプレゼントや旭市のイベント紹介などが取り上げられていた。結構情報発信をやっていると感じる。このような情報を市の広報に掲載することや、例えば、結婚して良かった事など当事者の声や、結婚に必要なことといった結婚相談員の意見を載せてはどうかと思う。

また、外国人研修生について、私のところでもベトナム人の研修生に来てもらっているが、「日本はどうですか」と聞いたところ、円安の影響で日本にあまり魅力を感じなくなっているとのことでした。次は台湾か韓国に行きたいと言っていました。旭市でどうこうという話ではないですが、国に要望するなど、日本がもっと魅力ある国になるよう私も努力しているつもりです。実は、先日ベトナムの学校に行ってきました。その学校は、以前は日本で働くための専門学校でしたが、今はドイツにも研修生を送っており、ドイツで医療・介護職に就く方も多いそうです。今年の米の出来高は今のところ豊作を見込んでいます。値段もかなり上がってくると思います。米が高くて豊作であれば旭市の経済も潤っていくのではないかと期待している。

事務局：タカミメロンのプレゼント企画はJ Aで、イベント告知は市がラジオ局に依頼をしていたと思います。広報はいろんな手段があり、紙、デジタルなど様々な媒体を上手く使いながらできるだけの情報発信はしていきたいと思います。広報紙への結婚関連の掲載は個人的に良いと思います。結婚して良かったことを知ってもらうことは大切だと思いますので、広報担当課にお伝えします。外国人実習生については、先ほどもありましたように色々な産業で労働力が少なくなってきました。労働力不足の解決にはデジタル化もありますし、外国人実習生は一つとして重要なことだと思います。今年は米が豊作ということで大変喜ばしいことだと思います。去年は暑さで米があまり獲れなかったと聞いています。今年の豊作で市の経済も良くなるとよいと思います。

委員：子育て関連で、おむつ券や医療費助成制度は、銚子など近隣市と比べると良いと聞くので続けてほしい。近隣で医療費が無料のところがあるが、無料のかわりにおむつ券がありません。少子高齢化で子どもが減っている中で、学校統合の話があるが、いかんせん旭市は交通の便が悪い。電車の本数が少なく、車が無いと学校の送り迎えができない方もいる。この異常気象や台風の中、片道4キロ歩くことは不可能なのかなと思います。一方、良い点もある、少ない人数の学校では、やりたい部活があってもできず、地域のクラブチームに行くしかない。でも、クラブチームに行くには親が送っていかねばならないし、月謝がかかる。そうすると、うち

はひとり親で送迎が出来ないから入れないという声もある。私もバスケットボールを教えています、夜遅くまでお仕事をされている保護者もいて送迎ができない場合、周りがフォローすれば良いのですが、なぜあそこの家は当番をしないのかという声もある。困難なこともありますが、やりたいことが見つけやすくなると思いますので、交通面で子どもたちが通学しやすい形をとっていただくようプロジェクトを見直していただきたい。

事務局：おむつ購入券の支給は旭市独自のサービスです。旭市で実施しているものや他市で実施しているものなど色々なサービスがあります。市の考え方もありますし、一概に全部できるかといったら費用もかかるので、限られた財源のなかでどういった使い方ができるのか考えながら進めていきたいと思います。学校の統廃合については、子どもが少なくてやりたいことができないが、人数が多くなれば部活動や行事ができることも統廃合の目的の1つです。学校が遠くなることについて不安な方もいると思いますが、教育委員会では地域での統廃合の説明においては、スクールバスを検討している話はしていると思います。

委員：先ほど、CCDプロジェクトの話があったが、なぜ糖尿病の発症予防だけなのかということが1点。また、がん検診の手伝いに行くことがあるが、この歳になって予約するのに電話以外でと言われた時に、そういう場合はどうしたらいいんでしょうねと何人かに言われた。私もパソコンができないので夫に頼んでいますが、高齢化が進む中、果たしてそれだけでいいのか。検査に来る方が少なくなっているような気がする。以前のような申し込み方法も必要ではないかと思う。それから、医療について、私も舅姑が施設にいますが、病院によっては、相談しに行っても手足の動かない方を家に連れて帰らないといけない場合がある。その時に誰が相談に乗ってくれるのか、病院はただ退院させればいいのかといった問題がある。私自身も旭中央病院に治療を断られ、他の大きい病院に通っている。先日、救急車で運ばれて入院しない場合に費用がかかることを経験した。それによって救急車の出動が抑えられるので良いと思うが、そのあたりも考えてほしい。昨年、副区長として出席した委員会では、医療費が高く、年金だけでは払えないという話が出ていた。高齢者と一緒に住んでいる方や一人住まいの高齢者が安心して病院にかかることができ、自宅で療養できることは良いですが、施設は3～4年待たなければいけないと聞いているので、旭市として考えてもらいたい。

事務局：CCDプロジェクトは、糖尿病の製薬会社から話があり、製薬会社がデータを集めるにあたって、国にどこが良いか相談したときに、生涯活躍のまちの官民連携の取組があるということで旭市が紹介されて始まったもので糖尿病に特化しています。がん検診の予約をパソコンで出来るようになり便利になっていると思います。パソコン申し込みが主流ですが、当然不慣れな方もいらっしゃるので電話でも対応していると思います。コロナワクチン接種申込の時に電話が繋がりにくい混雑した状態を解消するためにネット申込が導入されました。当然、パソコンが無い方などの対応も必要なので、現在も電話で対応していると思います。

委員：電話をかけた時にアプリを使って申し込みが必要だと聞きました。

事務局：当然、みなさん全員がスマホを使えるわけではなく、そういった方の対応も考えている認識で

した。また、病院としては、治療が終わったら退院していただくことになりますので、その後、ご自宅で見られないということであれば、介護施設がありますので、上手く繋がれるよう医療と介護の連携が大切だと思います。

委員：余程悪くて救急に行った場合は、検査入院になりますよね。

委員：救急外来を受診され帰れないほど具合が悪い場合は検査入院になりますが、翌日、専門医の受診となれば一旦ご自宅に帰っていただくことになります。

委員：その場合には、お金がかかるらしいです。

委員：医療制度として、土日や夜間など通常の診療時間外に救急外来を受診すると時間外加算があります。緊急で検査を実施するとその分も上乘せとなります。

委員：高齢者と交流があり、よく聞かれるので伺いました。

委員：医師の働き方改革が始まり、救急外来に専門医が滞在していない場合があります。その場合は最低限の緊急処置になります。

委員長：貴重な情報ありがとうございます。他の委員にも一言ずつお話いただければと思います。

委員：消防団では、若手がだんだん減っており、団員確保に苦勞している。そんな中でも旭市消防団は充足率が90%を超え、県内でもトップレベルですが、団員が高齢化していて勤続年数が伸びているなかで維持している現状がある。若手がいけないわけではないので、こういった形であれば入団していただけるかが課題となっている。また、基本施策にある公園の充実はどういった内容なのか教えてほしい。孫とみなと公園に行ったら遊具が全く無かった。そういったところから、「充実」ってどういうことなのか教えていただきたい。また、観光の振興について、上永井公園近辺の展望館を活用して、また行ってみたいと思ってもらえるような何か施設の整備や誘致を検討されているのか教えてほしい。

事務局：公園の充実ということで、基本施策19になります。旭市には、例えば袋公園や文化の杜公園などがあります。みなと公園も、遊具の老朽化が進んでいます。ただ、他にも魅力的な公園がいくつかある中で、しっかり維持管理をしていくとともに、他の農村公園や児童公園など色々ありますが、施設を集約していく代わりに今ある遊具を充実させていこうという取組を考えていきたいと思っています。もう1点、展望館の活用ということですが、展望館に新しく何かを整備する予定は今のところございません。ただし、民間事業者に管理を委託するので、その中で新たな活用方法をこれから検討していくところだと思います。

委員：5月末現在の千葉県の有効求人倍率は0.97倍、銚子ハローワーク管内の状況については0.85倍で、県より低い数字になっている。求職者100人に対して求人が85人しかない状況

です。職種別にみると、パートの有効求人倍率は確か0.67倍でさらに低いです。パートは求職者が多く求人が非常に少ない状況です。特に、ここ数年は、高齢者のハローワークの登録が非常に多くなっていて、高齢者になればなるほどパートを希望する方が増えていることは統計で出ている。ハローワークとしては、パートの求人をいかに増やしていくかが、地域で就職する方が増えていくことにつながっていると思っている。旭市とは合同の就職面接会など色々連携を図って、この先も連携しながら地域のために進めていきたい。

事務局：高齢者のパート希望者が増えているという現状をお伺いして、他の部署でパートを探しているがなかなか集まらないと聞いていましたので。

委員：今回の第3期計画は第2期と大体同じような流れでできているので基本施策は継続して発展を加えるということだと思う。基本目標も変わらず、第2期との差をみると、将来都市像に「心身の健康と健全な地域社会“ウェルビーイング”の実現」が入ってきたことが新しいところと受け止めた。このような考えが入ってきたということを、これから先、重点施策や基本施策を細かく書き込んでいくときにそのあたりの考えが出てくると良い。おそらく発表するときに第2期とどう違うのか、マスコミや市民が気になるころだと思ったのでそこが明確に打ち出せると良い。また、「住んでいるだけで“健幸”になれるまちづくりの推進」の「健幸」の文字は面白いなと思ったので、こういったところもアピールできれば良いと感じた。先ほど、医療・福祉のところで香取地域や匝瑳地域との連携という言葉があったが、周辺地域との連携は、医療・福祉だけでなく、ほかの分野でも必要になってくる。それぞれのプロジェクトを進めるうえでの記載に表現してもらえれば良いと思う。特に、観光では、旭だけでなく山武から入って銚子に抜けていく、香取から茨城に抜けていくなど広域での動きがみられる。また、成田空港の機能強化に向けた経済振興など、旭市・銚子市・匝瑳市が連携して取り組んでいく動きがあると聞いているので、そういった動きも市民にアピールする必要があると感じている。最後に、県全体で産業用地が足りないことは大きな問題になっている。確かに産業用地は必要ですが、旭市をみると、旭市の基幹産業の1つに農業があるなかで産業用地のために田んぼを埋めるのかという問題が出てくると思う。産業用地については、旭市としての明確なビジョンがあれば必ずしも産業用地についてどうこうしなくても良いのかなと個人的には感じている。産業用地は、用地買収から入って造成が終わって企業が張り付いて土地分譲代金が入ってくるまで10～20年の長いスパンがかかり、それまで投資した何十億のお金が返ってこないとなると相当な財政基盤が必要になるので、簡単に取り組めない事業でもある。

委員長：踏み込んで色々アドバイスいただきました。ありがとうございます。

事務局：将来都市像の「“ウェルビーイング”の実現」はまだ仮題ではありますが、CCDプロジェクトを通して糖尿病の発症予防に取り組んでいくことで、それ以外も色々な病気を防げるので、市全体に広げていきたいという思いがあります。「ウェルビーイング」に合わせて重点プロジェクトのなかでの「健幸」になってもらいたいという思いが込められています。県でも、東総3市の連携に取り組んでいただいているところで、医療・福祉、観光の連携もありましたが、1市だけでなく、連携したらもっと良い取組がありますので当然記載していきたいと思っています。

最後に、今のところ市として産業用地を造成する計画はありませんが、民間のほうでこうした
いなど話があれば相談に乗って進めていきたいというスタンスです。

委員長：皆様からご意見を伺いました。さらに細かいところ、将来都市像の表現の仕方、このようなイ
メージがあると良いなど、継続してご意見・ご感想などありましたら事務局にお願いしたいと
思います。その他、事務局からございますか。

事務局：次回の推進委員会ですが、9月26日を予定しています。内容は、総合戦略骨子の報告という
ことで、本日の（案）が取れた骨子という形となります。改めてご案内させていただきます。

委員長：ただいま、次回の委員会の日程について説明がありました。次回の会議で、総合戦略の骨子に
ついて報告があるようです。そのほか、委員の皆様から何かございますか。
無いようですので、本日の議事は以上となります。ご協力ありがとうございました。事務局に
お返しいたします。

事務局：本日は長時間に渡り、お疲れ様でした。本日いただいた皆様からのご意見を施策に還元してい
けるよう努力していきますので、よろしくお願いいたします。
以上で本日の会議を閉じます。ありがとうございました。

4 閉会